

# 観劇へのお誘い

2022年9月1日  
(一社) 大学女性協会  
収益事業委員会

朝の空気に爽秋の気配が感じられる頃となりました。皆様にはお元気にご活躍のことと存じます。  
日頃より収益事業委員会にご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、今年は茶人千利休が誕生して500年にあたることから、国立能楽堂では利休や茶道、茶器にゆかりある能と狂言を特集しています。お茶にかかわる3曲の狂言を是非お楽しみくださいませ。  
皆様、会員内外を問わず、お誘い合わせの上、ご参加いただけますようお願いしております。

## ☆千利休生誕 500年—国立能楽堂—狂言の会

○会場 国立能楽堂

○日時 2022年12月23日(金) 開演 13:00

○演目 狂言 御茶の水(おちゃのみず) 茂山 あきら (大藏流)

住持(住職)に茶の湯に使う水を頼まれて野中の清水を汲みに行った娘に、かねてより  
思いを寄せていた新発意(しんぼち・新米修行僧)が追って行き、恋心を謡いにこめる。  
帰りが遅いと迎えに来た住持がこの様子を見て新発意を叱るのだが反抗され組み合  
いになってしまう。

狂言 禰宜山伏(ねぎやまぶし) 大藏 基誠 (大藏流)

茶屋に嫌がらせを言う羽黒山の山伏を伊勢の禰宜(神官)が注意したことから2人の  
争いとなる。茶屋の主人が仲裁に大黒天を持ち出して、祈り合って大黒天の効いた方  
を勝ちとしようと。さて、勝敗の行方は?

狂言 煎物(せんじもの) 野村 萬斎 (和泉流)

祇園会(祭)の【おはやしもの】(お囃子物)の稽古に集まった男達の前に煎物売りが現  
れて「煎物」を勧めるのだが「稽古の邪魔だ!」と云われてしまう。それでは、囃子物の拍  
子に掛かって煎じ物を売るならば、という事に。

○チケット代 正面席 4,700円

○定員 15名

○申込締切日 10月8日(土) (定員に達し次第締切り)

締切日以降のキャンセルは、準備の都合上お受けいたしかねますのでご了承願います。

新型コロナウイルス感染状況により変更が生じましたらお知らせいたします。

.....

◎お申し込み JAUW 事務所 FAX:03(3358)2889 E-mail:jauw@jauw.org

◎お問い合わせの電話番号 :03(3358)2882